



教たま



教たま学習支援 豊富サマー チャレンジ



8/9~11

8/9日~11日まで、豊富町教育委員会主催の「サマーチャレンジ」が行われます。今年是小・中学生合わせて3日間でのべ132名の参加予定です。

ぐんぐん塾や教たま数学教室で磨いた指導力と研究の成果を生かして頑張りましょう！

今年の豊富サマーチャレンジは今までとは一味違う。それは、我々学生が改めて豊富サマーチャレンジに参加する目的とそれを達成するための具体的な目標を、しっかり話し合う機会をつくり設定したことだ。その内容とは、「児童・生徒と触れ合う中で実践経験を重ね、集団づくりを学ぶ場とする」という目的と「常に児童・生徒の実態や全体の動きを全員が把握する」という目標である。我々学生にとって豊富サマーチャレンジは、実際に児童・生徒に触れ合いながら、実践的な環境の中で支援することができる場だ。また、担当学年やクラス分けを行うことで、集団づくりを学ぶことができる。このような目的を達成するために、常に学生自身が児童・生徒の実態や全体を見通すことを意識し、それらを全体で共有する時間をしっかりとつくるのが大切なことであろう。

今年の豊富サマーチャレンジは学生にとって、確かな力をつける場になると確信している。この環境だからこそ学べることを学生がしっかり自覚し、有意義で意味のある時間になることを期待している。(サマーチャレンジ代表 疋田 晴哉)

月刊「教たま」に寄せて

副ゼミ長 3年 石尾 美岬

今年からゼミ長・副ゼミ長・教たま編集長を3年生が就任し、3年生が中心となりゼミ運営をしている。ゼミ内では文献をはじめ、オープンキャンパスや豊富サマーチャレンジの運営などで、自らの意見をしっかりと持っている感じる場面が多い。またゼミ内である活動に対しての目的・目標を考える機会が多く、自分の考えや思いをゼミ内で共有し、時間が多くかかることがあるが、自分の意見を表現することが出来ることは、ゼミの活動が活かされているのではないかと思う。

特に2,3年生はリーダーを任されることが多く、お互いがお互いのことを考えられるようになっていないかと思う。LeaderとPlayerを両方経験することにより、視野を広げることが出来ると感じる。昨年と比べても周りを見て、自分で考え、行動に移すということがゼミ活動を通してゼミ内外での活動でも活かされていると思う。

これからの豊富サマーチャレンジや学園祭でも前期で学んだ内容を活かせるように力を付けていくことが必要であると思う。

月刊「教たま」に寄せて

3年 古川 敦至

グングン塾は、去年も行ってたので緊張することなくできると自分では思っていたが、実際にグングン塾が始まってみると生徒に対してどう接していけばいいのかが、上手くつかむことができなくて戸惑うことが多くあり、自分から声をかけに行くなどの自発的な行動をとることができなかった。だがグングン塾に行くたびに塾に来ている生徒に名前を覚えてもらうことができ、問題を聞く際に名前を呼んでもらえる時がありその時はとてもうれしく、グングン塾に来てよかったという実感が強くなった。

1週間に一回であってもこのような場で生徒に教えたことが、生徒自身の身についていくことの実感があることは生徒だけでなく教えている側も今後の学習を行う際のやる気につながっていくと思う。グングン塾ではいまだ自分が納得できるような結果は出せてはいないが、教えることの充実感を得ることができることは自分にとって良い経験になるだろう。



教員からの応援歌

米津 直希

ハーバード大学で約80年に渡って行われた研究の結果わかったのは、人間の健康と幸福のために重要なのは「良い人間関係」だということらしい。言われるまでもなく自明だったことが、研究的に確認されたところだろう。

しかし教育を取り巻く環境はそうした人間関係の形成にとって困難な状況にある。自己責任を前提とした競争的環境は、人間関係の形成においては阻害要因として強く働く。教育を支える教員同士も、時間と余裕のなさから十分な意思疎通ができていないと聞く。

COC最後の5年目、教職ゼミは多くの人達と関わりながら活動を進めている。特に学習支援活動は周りの支援と信頼関係に支えられている。ゼミ内部でも学びあいと共助の関係性が築き上げられつつある。こうした関係性は、周囲から期待と激励をうけ、それに応えようとしてきたこれまでの活動があつてのことだろう。教育活動の要は人と人との関係性だ。学びあいながらもっと深めていきたい。